



経営学部長として

経営学部長
矢野 順治



皆さんは「インダストリー4.0」という言葉を聞かれたことはありませんか。ドイツが総力をあげて取り組んでいる巨大プロジェクトのことで、工業のデジタル化によって製造システムを根本的に変革しようとしています。このような試みが成功すれば労働コストを激減させる可能性があるといわれています。また「AIが人間の仕事を奪う」というようなショッキングな言葉も耳にされたことがあると思います。この奪われるという表現は正しい表現ではなく、人間の代わりにAIが行ってくれると解釈するべきです（第一次～第三次産業革命でどれだけの仕事を人間がやらなくてもすむようになり、どれだけ新しいことを人間ができるようになったでしょうか）。私の勉強している金融の分野でも高速取引と呼ばれる一秒間に何千回も取引を繰り返す

ようなコンピューター対コンピューターの闘いによる金融取引がますます重要になってきています（株式売買の40%に及ぶという説もあります）。

このようなITの進展がもたらすわれわれの経済社会の変化の例は、本当に枚挙に遑がありませんが、世界共通の変化です。次に日本について考えてみましょう。日本の働き方を語る時には終身雇用制、年功序列型賃金体系が必ず出てきます。しかし日本の働き方に特徴的なのはこのふたつだけではありません。皆さんのお父さん、お母さんがもし「お仕事は？」と聞かれたら、ほとんどの方は勤めていらっしゃる会社の名前をお答えになるでしょう。皆さんは社会人になって働き始めたら、係長補佐、係長、課長補佐、課長、次長、部長、役

員、社長と昇進してゆくと思いませんか？このような日本の働き方の特徴が将来大きく変化してゆく可能性が指摘されています。

このように皆さんがこれから活躍してゆかれるビジネスの世界は、日々変わり続けてゆきます。しかし皆さんが今勉強されている経営学の根本的考え方はどのような変動の波に襲われてもその価値を失うことはありません。むしろ激動の時代にこそ、皆さんの10年後、20年後にこそ、その真価を発揮します。



TUES Image Poster 2018

イメージポスター2018の紹介

皆さんは、大学にイメージポスターがあることをご存知だったでしょうか？
今年度の本学のイメージポスターについて紹介します。



〈 テーマ 〉 出発・始まり

〈 コンセプト 〉 「本当の豊かさ」を新しい発想で考える時代。

その新しい発想を生み出すために「環境視点」「経営視点」が必要になります。公立鳥取環境大学での学び、経験を通して知力、人間力、対応力を身につけ、大きな夢、希望を詰め込んで未来へ進める大学をイメージしています。